



DATA

人口545万人（≒兵庫県）、面積4.3万キロ平米（≒九州）、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「EU内で最も競争力のある経済」「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具等のブランドは日本でも有名。

当会事務局職員が、本年1月より在デンマーク日本大使館（在リトアニア日本大使館兼任）に出向しています。「EUの中で最も競争力のある経済」（世界経済フォーラム）との評価を受けるデンマークならびに、著しい経済成長を遂げるリトアニアの両国の現地報告を不定期にお届けします。



リトアニアの投資環境

初夏の陽光眩しい5月26日、天皇皇后両陛下がバルト三国のひとつ、リトアニアを初めてご訪問されました。政府専用機の着陸の様子まで生中継するなど、リトアニア側の歓迎ぶりは大変なもので、両国関係に新たな1ページが刻まれた瞬間でした。

さて、時を遡ること約4カ月前、デンマークに着任した私を、いきなりリトアニア出張が待ち受けていました。リトアニア政府が日本からの直接投資拡大に大きな期待を寄せており、その可能性を探るため、日本大使館として独自に投資環境を調査することになったのです。

◆7%超の高度成長に沸く「バルトの虎」

2004年にEU加盟を実現した

リトアニアは、年率7%超の経済成長を続け、その勢いから「バルトの虎」と呼ばれています。ある調査では「EUで最も魅力的な投資先」にも選ばれ、直接投資受入残高はこの10年間で約8.5倍に拡大しました。その多くは欧米露系企業であり、例えば米国企業は既に約600社が事業を展開しています。一方、日本企業は自動車部品製造やソフトウェア開発など数例にとどまり、日本企業にとってリトアニアは未だ知られざる国というのが現実です。

◆高等教育修了者比率はEU平均の2倍

リトアニアが魅力的な投資先とされる理由のひとつが、「教育水準の高い労働力」です。管理職や



発展するリトアニアの首都ビリニュス

技術者の賃金水準は西欧先進国の2分の1以下ですが、高等教育修了者比率はEU平均の2倍と群を抜いています。

◆「ソ連のシリコンバレー」としての潜在力

リトアニアはかつて、「ソ連のシリコンバレー」と呼ばれる科学技術の一大拠点で

した。現在でも、レーザーなどハイテクに強みがあるといわれ、非常にニッチな市場で世界シェア50~80%を占めるような製品が生み出されています。

理工系大学を訪問した際、ナノテクやバイオなど先端研究の説明にただ頷くしかありませんでしたが、その道の専門家が見れば、貴重な「宝」があったかもしれません。実際、彼らの研究に関心を示し、協力関係にある日本企業もあるようです。

◆開発拠点の設置や事業化支援に可能性

中東欧進出ラッシュに沸く日本ですが、この国の規模（人口約338万人）や労働力の逼迫状況（失業率3.4%）を考えると、これから労働集約型の工場が進出するのは難しい感じがします。

しかし、その潜在力に注目すれば、①IT等の開発拠点の設置、②研究成果の事業化支援、といった可能性は大いに考えられます。リトアニアで出会った若く優秀な人々の顔を思い浮かべながら、彼らが日本企業と接点を持つために何ができるのか——このような思いに駆られながら、帰路についた初出張でした。

齋藤 弘憲

在デンマーク日本大使館一等書記官  
（経済同友会事務局より出向中）



ビリニュスの中心に位置する大聖堂と鐘楼